

市民協働のまちづくり

市長とフリートークで意見交換「市民が主役のまちづくり」へ ～平成27年度市長との対話集会を開催～



市への要望などを伝える区長と傾聴する稲葉市長
(2月6日、大宝公民館で)

■市長との対話集会

市では区長と市長が膝を交えて、地域の実情や課題への共通理解・意見交換を行う「市長との対話集会」を開催しました。自治区と行政が連携しながら、まちづくりを進めていく「協働のまちづくり」を展開する中、この対話集会も市民協働の取り組みの一つとなっています。中学校区を単位に1月28日・リフレこかい(やすらぎの里しもつま)、2月6日・大宝公民館、2月11日・市役所本庁舎の3会場で延べ97人が参加しました。

集会は、はじめに稲葉市長が最近の市の取り組みとして「企業誘致の状況」「安全・安心のまちづくり」「農業の6次産業化」

「魅力あるまちづくり」の4つの観点から、大型スクリーンで報告。続いて、フリートーク形式で区長から出された意見や要望に、稲葉市長が直に回答するなど活発な意見交換が行われました。平成27年9月関東・東北豪雨の水害から、災害時の対応や自主防災組織にかかる意見が多く出されたほか、身近な課題の空き家対策や健康診断、少子高齢化等の多岐にわたる内容になりました。特に、災害時の広域避難の必要性や空き家の利活用では、積極的な提案もありました。

今後とも地域からの意見や要望を市政に反映させながら、市民協働の取り組みを進めていきます。

■水害への対応

平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川流域を中心に甚大な被害を受けたことから、対話集会の中で「水害対策」をテーマにした講演会を実施しました。

講師の伊藤弘之氏(国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部水害研究室長)は、水害のメカニズムや近年の水害状況を解説。水害対策として「以前とは雨の降り方も違ってきている。早めの対策が重要で『以前大丈夫だったから今回も大丈夫』という意識は捨てる」「鬼怒川・小貝川は栃木県と茨城県にまたがる流域を持ち、茨城県が晴れても、栃木県が大雨ならば下流で流量が増えることに注意」などと提唱し、地域の防災意識が高まる内容になりました。



水害対策を提唱する伊藤氏
(2月11日、市役所本庁舎で)

公共交通の誘致促進

東京直結鉄道の実現へ向け国土交通大臣へ要望

地下鉄8号線建設促進ならびに誘致期成同盟会と東京直結鉄道建設・誘致促進連絡協議会の会員等27人は2月4日、石井啓一・国土交通大臣を訪問し、東京直結鉄道の実現へ向けた要望書と172,952筆分の署名、子どもたちが描いた2,900枚の塗り絵を提出しました。本市からは稲葉市長と山中市議会副議長、飯塚県議会議員が同席。国の交通政策審議会が今春予定している「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申に、都市高速鉄道東京8号線(有楽町線)の延伸として豊洲から千葉県野田市までの区間を、目標年次までに優先的に整備を推進すべき路線として明確に位置付け

られるよう、さらに野田市から茨城県西南部方面への延伸について位置付けられるよう要望しました。

また、同会員等35人は2月16日、橋本昌・茨城県知事を訪問し、要望書を提出しました。本市からは稲葉市長と須藤市議会議員、飯塚県議会議員が同席。茨城県南西方面への延伸に向けて茨城県の協力を求めました。

平成27年12月に市民の皆さまから届いた下妻市分の署名は5,423筆、市内の小学1～3年生が描いた塗り絵は1,061枚となっています。ご協力ありがとうございました。



石井・国土交通大臣(左から1番目)に要望内容を説明する会員たち
(2月4日、国土交通省で)



橋本・茨城県知事(中央・左)に要望書を手渡す吉原・坂東市長(中央・右)と稲葉・下妻市長(左から2番目)
(2月16日、茨城県庁で)



1 人物埴輪(3号墳遺物)＝頭部に4つの突起物がある 2 円筒埴輪(3号墳遺物)
3 ガラス製小玉(3号墳遺物)＝古墳の埋葬施設から出ることが多いガラス製小玉が古墳の周溝の中から出土 4 鉄製品(7号墳遺物)
5 管状土錘(7号墳遺物) 6 かまど跡(1号竪穴建物跡から) 7 3号墳北西部調査風景(円筒埴輪ほか出土)

現地説明会に市内外から87人参加

1月28日の調査結果の公表から、1月30日に開催した一般向けの現地説明会では、前日の降雪にもかかわらず、市内外から87人が参加。高道祖地区ではこれまでも古墳群が何か所か見つかっており、市民など関心の高さがうかがえました。

市教委の職員と調査を担当した毛野考古学研究所の土生朗治さんが、現場で古墳や竪穴建物跡、かまど跡などの遺構をはじめ、出土した埴輪や土器などの遺物を詳しく解説。参加者は、獣や小動物を捕まえるわなの「落とし穴」に入



2号竪穴建物跡で解説を受ける参加者

て、穴の大きさを確認したり、質問したりと積極的に観察する姿が見られました。父親と一緒に参加した下妻小学校5年の鈴木侑弥さんは「教科書や本で見ると迫力があってびっくりした。こんなに大きなものを今より道具も発達していない時代に作っていたことを想像すると、とても大変な作業だったと思えた」と話していました。



獣や小動物を捕まえるわなの「落とし穴」を体験する鈴木侑弥さん

今後、古墳などの遺構は調査完了をもって埋戻され、工業団地の拡張工事が始まりま